

完了後の評価個表

整理番号	森4-1
------	------

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	岐阜県
地区名	いびがわちよう 揖斐川町	事業実施主体	岐阜県、揖斐川町、岐阜県森林公社、木曾三川水源造成公社、揖斐郡森林組合等
関係市町村	揖斐川町	管理主体	岐阜県、揖斐川町、岐阜県森林公社、木曾三川水源造成公社、揖斐郡森林組合等
事業実施期間	H16～H20（5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 揖斐川町は、岐阜県最西部に位置し、北西は福井県大野市、池田町、南越前町、南西は滋賀県米原市、長浜市、木之本町、余呉町、また岐阜県側は本巣市、小野町、池田町、垂井町、関ヶ原町にそれぞれ接している。 町の南西部から北西部にかけては標高1,100～1,300m前後の山々がそびえ、その山間を縫うように揖斐川、坂内川、日坂川が流れている。町の南東部は、濃尾平野の最北端に位置する平坦地となっており、市街地および田園地帯となっている。 町域の91.4%が森林であり、農用地が2.2%、宅地が0.7%となっている。</p> <p>② 森林の現況 当町の森林面積73,490ha（森林率91.4%）のうち、民有林面積は67,921haで森林全体の92%を占めている。民有林の人工林面積は20,626ha（人工林率30%）であり、齢級構成ではⅢ齢級からⅧ齢級の面積が9,027haで44%を占めている。 また、水源涵養保安林として32,994ha、土砂流出防備保安林として8,038haが指定されているなど、森林の有する公益的機能の高度発揮が期待されている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 人工林の4割がⅢ齢級からⅧ齢級であり除・間伐等の保育を必要としているが、木材価格の低迷等に伴い、森林所有者の施業意欲が減退しており、森林の有する多面的機能の高度発揮が懸念される状況にあった。 このため、計画的に除・間伐等の森林施業を推進することにより、森林の有する多面的機能の維持・増進を図り、もって森林環境の保全に資することを目的として事業を導入した。</p> <p>(事業概要) 森林整備 植栽 1ha、下刈 184ha、雪起し 207ha、除伐 1,083ha、 間伐 3,313ha、特定高齢級間伐 5ha、枝打ち 664ha、 抜き伐り 5ha、枝払い 20ha、樹下植栽 24ha</p> <p>林道整備（開設） ① 栗ヶ谷線 車道幅員 2.0m 開設延長 243m 利用区域面積 105ha</p> <p>林道改良 ② 西横山～山の谷線 法面保全 改良箇所1箇所 利用区域面積 544ha</p> <p>総事業費 1,819,189千円 （当初総事業費 2,811,495千円）</p>
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成26年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 なお、林道整備の道整備交付金への移行等により総事業費が減少したが、事業期間（現在）の施業を保育間伐主体から、搬出間伐主体に転換したことを踏まえて分析した結果、事業採択時に比べて総費用は大きく増加した。</p> <p>総便益（B） 63,839,441千円 （事業採択時 66,626,160千円） 総費用（C） 9,527,399千円 （事業採択時 5,987,246千円） 分析結果（B/C） 6.70 （事業採択時 11.13）</p>
② 事業効果の発現状況	<p>揖斐川町内において事業着手時に約1万2千haあったⅢ～Ⅷ齢級の人工林のうち、整備を必要としていた約5千haの森林において除・間伐等の施業が計画的に行われ、森林資源として充実してきている。</p>
③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>森林については、森林所有者自ら、又は、森林所有者から経営受託した森林組合等が適正に管理を行っており、特に新たに植栽を行った森林については、その後も下刈り等の保育施業を適切に実施している。</p>

④ 事業実施による環境の変化	除間伐等の施業が実施された森林は、不用木の除去や不良木の淘汰等が適切に行われ、明るく健全な森林に改善された。
⑤ 社会経済情勢の変化	揖斐川町内の林内路網密度は、事業着手時に16.0m/haと県内平均の19.3m/haと比較して低いものであった。しかし、事業着手後に徐々に改善がなされ、作業現場へのアクセスの改善、素材生産の低コスト化等が図られ、それとともに森林施業の意欲が増進されてきている。そのような中で、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向けて、地域が一体となって取り組んでいる。
⑥ 今後の課題等	<p>事業完了時から5年が経過し、揖斐川町内の資源構成上のピークとなる区齢級の人工林蓄積量は事業開始時の約60万m³から100万m³へと加速的に充実してきている。このような、利用期を迎えつつある森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、木材価格の低迷等もふまえ、森林施業の集約化や路網整備を通じた低コスト化を図り、計画的な森林整備を一層推進していく必要がある。</p> <p>(地元の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林整備事業の実施により、水源涵養^{かん}や山地災害防止といった公益的機能の高度発揮に寄与しているものと考えられる。(岐阜県)
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 森林の有する公益的機能の維持・増進を図るための森林整備が計画的に実施されていることから、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 森林整備については、喫緊の課題である除・間伐を優先的に実施していることから、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 適切な森林施業の実施により、森林の有する公益的機能の高度発揮、維持・増進に寄与していること、さらに、持続的で低コストな森林経営に向け、地域をあげた取り組みにつながっていること等から、事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名： 森林環境保全整備事業

都道府県名： 岐阜県

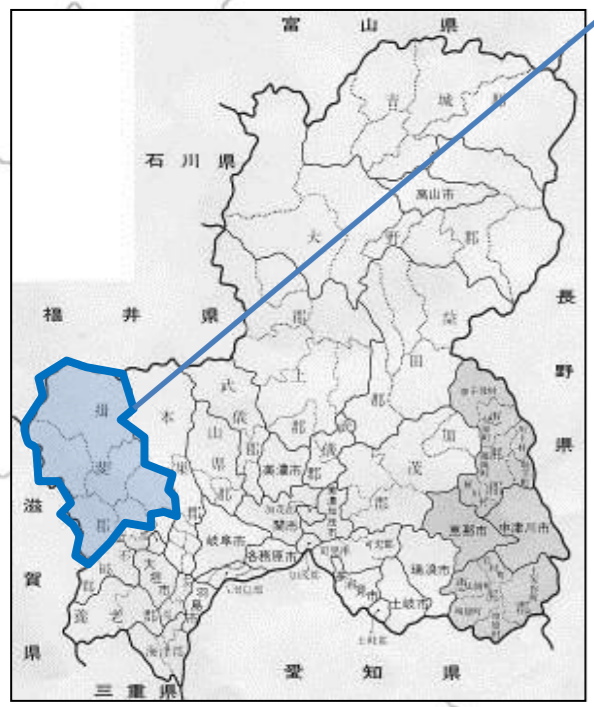
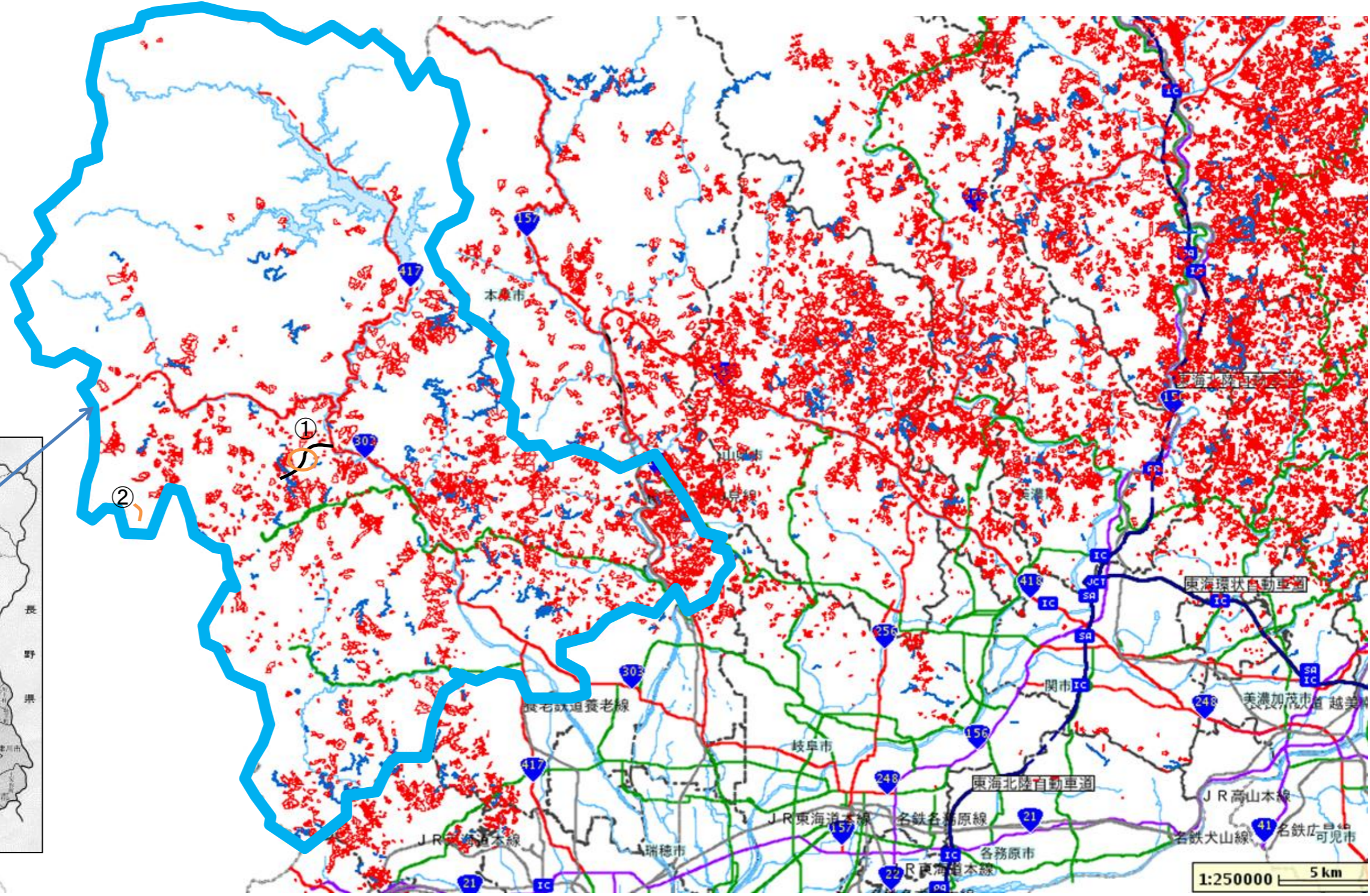
地域(地区)名： 揖斐川町^{いびがわちよう}

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	22,898,171	
	流域貯水便益	5,508,323	
	水質浄化便益	16,139,362	
山地保全便益	土砂流出防止便益	14,519,513	
	土砂崩壊防止便益	1,248,880	
環境保全便益	炭素固定便益	3,408,617	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	6,455	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	80,823	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	1,259	
維持管理費縮減便益		28,038	
総 便 益 (B)		63,839,441	
総 費 用 (C)		9,527,399	
費用便益比	$B \div C = \frac{63,839,441}{9,527,399} = 6.70$		

平成26年度 森林環境保全整備事業 完了後の評価実施地区 位置図
 揖斐川町地区（岐阜県 揖斐郡 揖斐川町）

凡	例
市町村界	
森林整備箇所	
林道整備箇所	
	①西横山～山の谷線
	②栗ヶ谷線



(C) 岐阜県